

平成 23 年 10 月 21 日

兵庫県教育委員会  
教育長 大西 孝 様

(社) 兵庫県精神障害者家族会連合会  
会 長 本 條 義 和

### 心の健康教育に関する要望書

貴職ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。又、平素当会活動にご支援・ご理解をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省は従来の 4 大疾病に精神疾患を加え 5 大疾病とすることを決めましたが、自殺者が 13 年連続で 3 万人を超え、国民 40 人に 1 人が精神科医療にかかっている現状はまさに危機的であります。

県並びに教育委員会当局におかれましても、発達障害や思春期精神疾患等いわゆる精神障害児教育に取り組んでいただいておりますが、障害児だけでなく児童生徒を含めすべての市民の心の健康が増進するよう下記要望をいたします。格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

尚、ご多忙中恐縮ですが 11 月 21 日までに文書にて、ご回答下さいますようお願い申し上げます。

#### 記

1. 精神疾患を早期発見し治療につなげるために、小中学校段階から心の健康について教育してください。
2. すべての教職員に対し、心の病を含めた心の健康について研修を実施してください。
3. 精神障害に対する根強い偏見を取り除くために学校教育及び自治会等の人権学習会でも取り上げてください

#### 添付資料概要

資料名 「児童・生徒のこころの病気の早期発見・早期支援のために」

東京都精神医学総合研究所統合失調症研究チーム 西田淳志研究員

内 容 若年層における精神疾患の罹患率は、13 歳～17 歳で 19%、18 歳～24 歳で 27%と中高生のときかなりの割合で罹患している。

その原因は、第 2 次性徴期、子供の脳から大人の脳への改修工事が行われるが、その段階で様々なトラブルが生じ、そのまま放置していたら精神疾患を生じることがある。しかし、精神的不調・精神疾患が生じ始めた初期に適切な支援を受ければ、良好に回復し元の生活に戻れる。

若者を早期支援・治療に導くためには、地域での啓発及び教育が不可欠である。

以上